

令和4年度 備前県民局地域づくり支援事業 最終報告

団体名：NPO法人ママほっとサロン
部所名：備前県民局福祉振興課

＜事業名＞ おでかけひろば

＜事業概要、各主体の役割＞

コロナ禍において、閉塞感を抱きながら孤独な子育てとなっている家庭が多いことから、身近な場所に気軽に相談したり、子育て中の他の親子と交流する場所が必要である。

そのため、親子に他者と出会い共に育ち合える、安心して過ごせる温かな居場所を提供するため「おでかけひろば」を実施し、親子の交流の場の促進や妊娠期から子育て期の相談事業等を実施するとともに、交流の場を利用し、ひとり親家庭など貧困家庭等へ食料品等の提供を行う。

（各主体の役割）

- ・NPO法人ママほっとサロン⇒事業の企画・実施、事業報告書作成
- ・備前県民局⇒事業企画協力、広報協力、補助金交付

＜実施状況＞ ※写真等を利用して分かりやすく実施状況を記入してください。

1 おでかけひろば

木のおもちゃの遊び、専門職による相談、ハッピー♥サイクルの3事業を柱とするおでかけひろばを3市1町において合計13回実施した。（①おでかけひろば参加状況参照）

ひろば事業実施後には、実施先の拠点スタッフとおでかけひろばスタッフが利用者親子の様子や関りについて一緒に振り返りを行い、支援の方向性を考えたり共有したりした。

また、おでかけ先の地域子育て支援拠点や公民館、保育園の支援センターと連携を図り、地域での子育て支援活動を広げていった。

専門職による相談事業では、妊娠期や子育てに関する心配事の相談を受けた。相談内容によっては、地区の保健師や専門機関に親子を繋いだ。

ハッピー♥サイクルでは、品物提供者と受取希望者の登録を増やしつつ、品物提供をおでかけ先や団体事務所にて行った。発達に課題のある子どもとその母親、新型コロナウイルス感染症に罹患した乳児を持つ核家族、養育環境に課題のある家庭、不登校の子どもを養育する母親、経済的な困窮を抱える家庭等への支援を行った。



2 子育て支援者育成研修

子育て支援者育成研修を4回行い、支援者のスキルアップを図るとともに、和気町、赤磐市、岡山市東区の子育て支援に携わる人たちが参加する学びの場となった。

（②支援者育成研修参加状況参照）

3 事業全体会議

これらの事業を実施するにあたり、事業全体の打ち合わせや振り返りの会議を合計3回行った。（③事業会議実施状況参照）

4/28の事業打ち合わせ会議では、おでかけひろば事業の意義や役割を確認し、9/8の中間期評価の会議では、事業の進捗状況や自分と他のメンバーの役割を知ることができた。2/9の振り返りの会議では、協力団体や連携先、相談員、スタッフ、記録係、ハッピーサイクル担当者が集まり、事業の成果を共有するとともに、課題について考える場となった。同じチームのメンバーとしておでかけひろばに関わることで、スタッフ相互に信頼関係が生まれたことを実感した。



	開催日	会場		参加者（延べ数）				スタッフ （相談員 を含む）	連携先 スタッフ
				親子数 （組）	大人 （人）	子ども （人）	合計 （人）		
①	5/20	和気町	宮田コミュニティハウス	8	8	7	15	7	1
②	6/9	備前市	備前プレーパークの会	6	6	8	14	8	2
③	6/17	和気町	藤野会館	7	7	9	16	8	1
④	7/15	備前市	しずちゃん家	9	7	11	18	7	5
⑤	8/19	和気町	ママほっとサロン事務所	5	4	8	12	6	0
⑥	9/16	備前市	備前プレーパークの会	6	6	7	13	7	2
⑦	10/13	岡山市	江尻レストパーク	8	8	9	17	8	3
⑧	10/21	赤磐市	チャルラル	7	7	9	16	7	2
⑨	10/29	岡山市	万富公民館	7	12	8	20	6	5
⑩	11/18	岡山市	万富公民館	5	5	7	12	8	2
⑪	12/8	備前市	みついし子育てひろば	10	12	13	25	7	4
⑫	12/16	赤磐市	チャルラル	8	9	10	19	8	2
⑬	1/20	岡山市	万富公民館	5	5	6	11	9	2
合計				91	96	112	208	96	31

*特記事項：妊婦さん3人、父親8人、双子2組。
実数：51親子、大人57人、子ども66人。

②支援者育成研修参加状況

	①おでかけひろばとは	②子育て支援と木のおもちゃ	③子ども理解を図る	④多職種連携	
開催日	5/12	7/14	11/10	1/12	
会場	和気町中央公民館 2F 和室	和気町中央公民館 1F 会議室	ENTER WAKE BASE 3F	ENTER WAKE BASE 3F	
参加親子（組）	9	8	7	7	
大人（人）	6	8	3	4	
子ども（人）	2	3	0	0	
スタッフ（人）	3	3	4	3	
合計（人）	11	14	7	7	39

③事業会議実施状況

	開催日	会場	参加親子 （組）	大人 （人）	子ども （人）	スタッフ （人）	合計 （人）
事業打ち合わせ	4/28	和気町中央公民館 2F 和室	13	10	1	3	14
中間期評価	9/8	和気町中央公民館 1F 会議室	16	13	0	3	16
事業振り返り	2/9	ENTER WAKE BASE 3F	16	12	1	4	17
							47

<成果・効果> ※事業を実施した成果等についても、可能なかぎり盛り込んでください。

1 おでかけひろばについて

参加した親子にとっておでかけひろば事業は、木のおもちゃの遊びを楽しめるとともに、顔見知りとなったスタッフがいる安心感の中で過ごすことができる場であり、また、子育てなど気になることを大きな悩みになる前に相談できる相談員の存在やハッピー♥サイクルでの品物の受取りもできるなど楽しみなものとして認識されていることが分かった。

この事業を通じて子どもの成長していく姿を見られること、そのことを母親と共有し喜び合えることも孤独な子育てからの解放に繋がっていると考えられる。



おでかけひろばの参加親子（実数）は、51家庭、大人57人、子ども66人であった。そのうち、半数超の家庭が複数回参加するリピーターとなった。リピーターがいることで、おでかけひろばの雰囲気落ち着くというメリットがある一方で、13か所で開催したものの、おでかけ先地域の参加者が制限され、同じ地域の親子同士を繋げることが充分できなかったのではないかとこの反省があった。

○参加者の声

- ・「今までなかなかおもちゃで遊べなかったのですが、今回初めて！！色々なおもちゃに興味を持って遊んでいて成長を感じた。」
- ・「ありを引っ張って遊ぶおもちゃを気に入ってよく遊んだ。ありの背中で木の卵がくるくる回るのが不思議だったみたいで、とても楽しそうだった。」
- ・「自分で遊び方を考えて遊べる。木のおもちゃは魅力的だなと思った。」
- ・「相談員の方とお話ができて楽しかった！普段話せないことがたくさん話せて嬉しかった。みなさん親身になってくださり素敵なお方ばかりだなと思った！木のおもちゃで遊べる機会があって、子どもも楽しそうだった。」
- ・「診察時間も限られておりなかなか歯医者さんとお話しする機会がなかったが、最近困っていた息子の歯磨きについて相談できて嬉しい。」

○アンケート結果

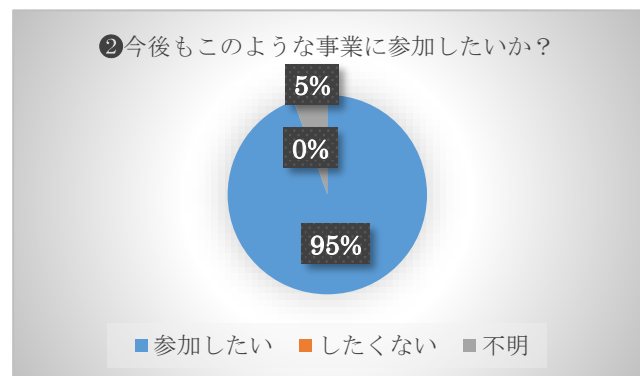
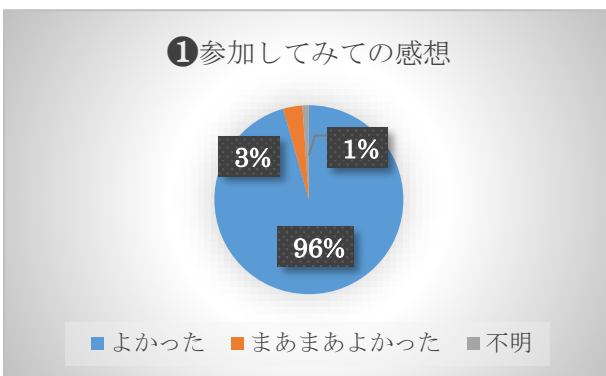
おでかけひろばに参加した91組に配布し、回収率は100%であった。なお、回答のない項目があり、その項目については不明としている。

①アンケートによる参加者満足度は「よかった」「まあまあよかった」を合わせて99%、不明が1%であった。

②今後もこのような事業に参加したいかについては、95%の人が「参加したい」を選択し、5%の人が不明であった。

参加者満足度はこのアンケート結果から、おでかけひろばの3本柱の事業については、利用者満足度が高いと考える。

④おでかけひろば実施後アンケートの結果



2 相談事業について

専門家による相談事業については、88件の相談があった。

④専門職による相談事業集計参照)

妊婦の相談から子育てに関する相談、子どもの発達、育児希望、子どもの歯のケア、双子の子育て、母のメンタル、家族間の不和などの相談を受けた。おでかけひろば事業実施期間内に継続して関り、専門機関へ親子を繋ぐケースもあった。

より気軽に相談できるよう子育て相談メールのチラシを作成し、11月上旬から連携機関やおでかけひろばで配布するとともにSNSでも情報発信した。1月末時点でメールでの相談件数は1件であり、情報伝達不足を考え、2月に再度4市2町とおでかけひろば連携施設へチラシを配布した。



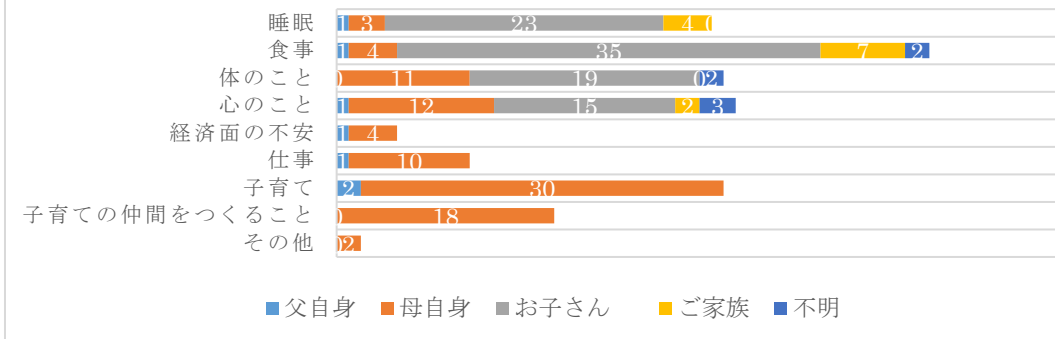
④専門職による相談事業集計

日時	相談員		相談 件数	相談項目
5/20	小児科看護師	助産師	5	実母との子育て観の違い、母乳が足りているか、赤ちゃんの体重増加、哺乳瓶の練習、妊娠後期の睡眠不足
6/9	家庭医	助産師	6	入園前の断乳、昼寝をしない、湿疹への対応、鼻水(+) での受診、日焼け止め塗布必要か、児のパニックへの対応(2歳)
6/17	小児科看護師	助産師	4	ハイハイの不均衡、赤ちゃんの便秘、排便時は紙オシメ、おねしょ(3歳)
7/15	作業療法士	助産師	7	子どもの発語、奇声を上げる、プールに入るのを嫌がる、会陰マッサージの方法、出産時の上の子の養育など
8/19	小児科看護師	助産師	8	頭を壁や床に打ち付ける時の対応、遊び場で他児の頭を叩いた時の対応、食事中に中断した場合の対応、同居の義母への思い、ケガが多い、ものをよく投げる
9/16	社会福祉士	助産師	3	こどもへの対応に困っている、妊活、離乳食
10/13	家庭医	歯科医	11	哺乳量(3か月)、どんなおもちゃを与えたらよいか、子どものマスク着用、母の足底のケア、歯磨きで気を付けること、フッ素塗布、歯科受診の目安、お出かけ時のおやつなど
10/21	作業療法士	助産師	6	乳児の発達、上の子の甘えと母の苛立ち、離乳食の進め方など
10/29	小児科看護師	歯科衛生士	10	子どもの為に集団保育に入れるべきか、親の言うことが伝わりにくい、卵アレルギーと薬の塗布、食べムラがある、子どもの口臭、歯磨きを嫌がる時の対応、うがいができない時の対応
11/18	社会福祉士	助産師	5	上の子の退行現象、妊娠初期の上の子の抱っこ、同居の義父との関係、他児とのトラブル対応など
12/8	社会福祉士	助産師	8	便秘と吐き戻し(0歳)、場所見知り人見知り(1歳)、シャンプーを嫌がる(3歳)、順番と約束(3歳)など
12/16	作業療法士	助産師	6	双子の育児(父)や二人の子育てへの労い、3人目の出産後上の子たちの産前産後保育、卒乳と乳房の手当、子どもの発達と困り感
1/20	家庭医	助産師	9	こどもの偏食、アレルギー反応と子どもの食事、夜中にうなる、色の認識(3歳)、妊婦さんの運動不足、臀部痛、食事の繋ぎなど
合計			88	

相談に関するアンケート結果によると、子どもに関することとして「食事」「睡眠」「体

のこと」「心のこと」の順で相談してみたいとの回答が多かった。母親自身が相談してみたい項目としては、「子育て」「子育て仲間をつくること」「心のこと」、父親自身が相談してみたい項目は、「子育て」であった。

③ どんなことを相談してみたいですか



3 ハッピーサイクル事業

ハッピー♥サイクルの登録者数は75人となり、品物提供団体は5団体、品物提供者は、33人となった。

⑤おでかけひろばによるハッピー♥サイクル事業登録者数等

登録者の中には品物を受け取る側から、活動の趣旨に賛同し「菓子」「洗剤」「食品」などを提供する側になった方も存在する。



⑤おでかけひろばによるハッピー♥サイクル事業登録者数等

	事業開始前	7/31	2/23 現在	増減
受け取り登録者数	12人	35人	75人*1	63人増
提供団体数	2団体	2団体	5団体	3団体増
提供個人数	27人	31人	33人	6人増

*1：ハッピー♥サイクル公式アカウント登録者数

登録者のうち、緊急で必要として自ら連絡をしてきた人は3名（ひとり親2名、妊婦1名）

○提供団体について

- ・恒次工業
- ・和気町社会福祉協議会
- ・岡山南高校商業部
- ・こどもを主体とした地域づくりネットワークおかやま
- ・ザ・ビッグ和気店（マックスバリュウ西日本株式会社）

○利用者の内訳

⑥おでかけひろば中のハッピーサイクルの利用組数は、延べ 91 組中 78 組(85%)の家庭が利用した。

⑦おでかけひろば実施日以外でのハッピー♥サイクル利用組数（事務所受け取り）は、120 組であった。

また、⑧おでかけひろば実施日以外でのハッピー♥サイクル利用組数（配達*2）は、73組であった。配達エリアは、瀬戸内市（コンビニ駐車場、個人宅）、岡山市東区（万富公民館、個人宅）、備前市（NPO法人備前プレーパークの会、カフェランバー、個人宅）、和気町（個人宅）、赤磐市（ドラッグストアー駐車場）である。配達については、生活環境などから必要性を感じてプッシュ型で行う場合と配達場所を決めて受け取りに来てもらう場合がある。

⑥おでかけひろば中でのハッピー♥サイクル利用組数（延べ数）

開催日	5/20	6/9	6/17	7/15	8/19	9/16	10/13	10/21	10/29	11/18	12/8	12/16	1/20	合計
利用組数	4	7	7	7	5	8	8	4	4	5	8	7	4	78

⑦おでかけひろば実施日以外でのハッピー♥サイクル利用組数（延べ数）（事務所受け取り）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
利用組数	3	7	19	10	18	3	18	8	13	9	12	120

⑧おでかけひろば実施日以外でのハッピー♥サイクル利用組数（延べ数）（配達*2）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
利用組数	0	10	9	4	1	5	7	11	8	7	11	73

*2：配達エリア 瀬戸内市（コンビニ駐車場、個人宅）
岡山市東区（万富公民館、個人宅）
備前市（NPO法人備前プレーパークの会、カフェランバー、個人宅）
和気町（個人宅）
赤磐市（ドラッグストア駐車場）

⑨連携団体施設への品物提供回数（延べ数）

月	6月	7月	12月	1月	合計
連携先への品物提供回数	和気町社会福祉協議会 1	備前プレーパークの会 1 藤野民宿 1 本荘児童クラブ 1	和気町社会福祉協議会 1	備前プレーパークの会 1 江西桜こども園なかよしひろば 1	7

○ハッピー♥サイクル利用者の声

- ・「沢山の人がありがたい、嬉しいと感じていると思う。友だちに話しても、みんな『和気はいいね。自分のまちにもあったらいいのに。』と言われる。事業を回すのは大変だと思うが無理しない程度に。」
- ・「利用者としていただけるものがある事だけでもすごく助かっている。孤独な子育てをしているひとり親家庭の方もおられるかもしれない。連絡が出来る所や人があるのは心強いことだと思う。話をする事で気持ちが楽になることは大いにあるから、そういった場所があるのはすごく助けになっているよ！」

4 子育て支援者育成事業

支援者育成研修を4回実施し、延べ39人が参加した。おでかけひろば事業と並行して研修を行うことで、本事業に関わるスタッフが、親子に寄り添う方法をそれぞれが見出していった。研修により親子との繋がりの大切さを学び、親子のニーズを丁寧に聞き取ることでスムーズに相談員や事業（ハッピー♥サイクル）、連携先の子育て支援事業、木のおもちゃの遊びへと繋いでいくことが出来るようになった。しかし、利用者同士を繋ぐことまで出来れば更に良かったとの反省があった。

研修と事業を通じ、おでかけひろばスタッフとしての役割や事業への理解を深めながら携わる姿がみられた。

○支援者育成研修参加者の声

- ・「子どもにとって『遊び』がとても大切で、子どもをよく見て子どもの気持ちになって考えてみることを大切にしたいと改めて思った。」
- ・「多職種連携の漠然とした何か良さそうというイメージから、一気に明確な支援のイメージが広がっていった。もっと早くから知っていれば…という気持ちを目の前で悩んでいる親子に返して行けたらいいと思う。」
- ・「おでかけひろばの楽しい心の裏側にはいろんな配慮があるのだなと思った。子どもが小さいときに出会いたかった支援者に自分になれるように今日教えていただいた力を身につけていきたい。」

【備前県民局】

お出かけひろばの開催を重ねるごとに、スタッフの役割や協力団体との連携がスムーズになっている。スタッフによる声掛けも自然体であり、親子が安心して過ごせる温かな居場所として定着してきている。

また、ハッピー♥サイクル事業については、地域において認知度が高まり、登録者・協力者ともに増加傾向にある。

<課題・今後の方向性> ※事業を実施して見えてきた課題や、今後どのように取り組んでいくかな

どについて記載してください。



1 参加した父親の声や多胎児の育児支援

育児休暇中の父親の「妻は大変だと思うが、自分は人手がいるであろうから、育休を取り傍にいたただけ。」という言葉から、父親が子育てをすることの喜びや楽しさ、父親にとってのメリットが感じられると子育てを前向きにとらえられ充実した時間を送られるようになると考える。また、多胎児の参加件数は少ないが育児の大変さを理解した上での情報提供や対応ができる力を身につけたい。

→おでかけひろば内でできる父親や多胎児の育児支援について検討する。

2 子育て支援の連携を継続するための基盤づくり

連携の仕方はどのようなものが良いのかを連携先の団体と話し合いながら、連携先に合わせた連携方法を柔軟に考える必要がある。連携シートも然り。

→連携先団体スタッフのキーマンと信頼関係を築き、利用者にとって最善の利益を考え、情報を共有し、共に親子を支えられる支援者同士として協力し合えるシステムを作る。

3 母親、父親の子育ての仲間づくりのきっかけ

育児の主体である母親が、子どもの成長を共に喜び合えたり相談し合えたりする仲間を求めており、おでかけひろば事業内で参加者同士を繋ぐ工夫がもう少し必要であったと振り返る。

→参加者同士を繋ぐという視点を持ち、共通の話題や悩みを引き出し、参加者同士で話ができるようファシリテートする力をつける。

4 相談事業の充実化

子育ての悩みや父親・母親自身のことについてゆっくり相談できる場所、時間、聴く人が必要である。

また、相談の内容により、それぞれの親子にあったタイミングで行政サービス等具体的な支援に繋げていく必要がある。

さらに、相談後も親子の経過フォローを行い、長いスパンの中で親子が困ったときにヘルプを出せる距離感を保つ必要がある。

→親子が気軽に相談できる場所や機会を意識的に設定し、安心して相談できる体制を構築する。

5 支援者、相談体制の維持継続

この事業を通じて生まれたおでかけひろばのスタッフ集団、相談員チームが、今後も継続できる方向を見出したい。

→次年度についても、引き続きおでかけひろば事業を実施し、スタッフ、相談員チームの繋がりを維持する。利用者からの相談に対し、必要に応じて助言を求めることができるチームワークを構築していく。

【備前県民局】

子どもの遊びと食料品等の提供の機会を通じて、子育ての相談に結びつけていくという事業モデルができつつある。今後、いかに事業を継続していくかが大きな課題であり、地域や自治体等からの協力について、模索していく必要がある。